

年 組 名前:

日川の魚生息数回復

峡東漁協調査 19年台風前水準に

【本報記者 松本飛勇馬】
 峡東漁業協同組合と国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所などは27日までに、甲州市内を流れる日川に生息するアマゴとイワナの調査結果をまとめた。推定生息数は計1790匹。台風の影響で生息数が激減した2020年以降は2年連続の回復傾向にあり、担当者は「以前の生息数に戻ってきている」と分析する。

山上萩原の一の平橋から日川ダム下の約500mが調査対象。標識放流法と呼ばれる方法で、今年6月中旬に水中に放電して魚を気絶させる電

組合などは5年前から日川でアマゴとイワナの推定生息数の推移を調べている。漁協大和支部によると、甲州市塩



調査結果を報告する坪井潤一主任研究員（右）
 甲州市塩山上萩原

のアマゴは40匹、イワナは76匹だった。漁協と同研究所は16日に同市のペンションすずらんなどで調査報告会を開き、標識の割合から推定生息数がアマゴ685匹、イワナ1105匹の計1790匹だったと報告。19年の台風で稚魚が流れてしまうなどの影響を受け、20年には545匹にまで減少したが、21年は1671匹、22年は1790匹と回復傾向にあることが分かった。

同研究所の坪井潤一主任研究員は「日川の潜在能力の高さを再確認することができた。たくさんの方の協力があったからこそ調査なので感謝したい」と話した。

同研究所によると、市民参加型の標識放流法での調査は「世界的にも珍しい」(担当)者。といい、来年6月に栃木県日光市で開催される国際イワナ学会で取り組みを発表する予定という。

(2022年10月28日付 山梨日日新聞22面)

問1

峡東漁業組合などが、日川に生息するアマゴとイワナの調査を実施しました。何と呼ばれる方法で、どこで調査したか教えてください。

・方法: ・場所:

問2

2020年から2022年の推定生息数と、その3年間の傾向を教えてください。

・2020年: 匹 ・2021年: 匹 ・2022年: 匹

・傾向:

問3

この調査をすることの意義を考え、結果をどのように活用していけば良いか考えてください。

.....

.....

.....